2021年10月　教会行事予定表

9月の運営委員会中止のため行事は暫定です。後日決まり次第　お知らせします。

	曜	午　　前	午　　後
1	金	入門講座（登別教会）10:30	
2	土	ミサ　10:00　掃除当番太平洋地区	
3	日	ミサ9:30	
4	月		
5	火		
6	水		
7	木		入門講座　18:00
8	金	入門講座（登別教会）10:30	
9	土	ミサ　10:00　掃除当番太平洋地区	
10	日	集会祭儀9:30　　登別教会ミサ　10:00	
11	月		
12	火		
13	水		
14	木		入門講座　18:00
15	金	入門講座（登別教会）10:30	
16	土	ミサ　10:00　掃除当番太平洋地区	
17	日	ミサ9:30	
18	月		
19	火		
20	水		
21	木		入門講座　18:00
22	金	入門講座（登別教会）10:30	
23	土	ミサ　10:00　掃除当番太平洋地区	
24	日	集会祭儀9:30　　登別教会ミサ　10:00	
25	月		
26	火		
27	水		
28	木		入門講座　18:00
29	金	入門講座（登別教会）10:30	
30	土	ミサ　10:00　掃除当番太平洋地区	
31	日	ミサ9:30	

2021年度7月からの主日のミサ・集会祭儀各地区対応表

週	項目	9月
第１主日	ミサ	太平洋・白鳥
第２主日	集会	蘭岳・楽山
第３主日	ミサ	蘭岳・楽山
第４主日	集会	白鳥・太平洋
第５主日	ミサ	
	掃除当番	太平洋

北海道緊急事態宣言のため、９月の運営委員会が中止となりました。
従いまして10月の行予定表も暫定的なものです。
ミサ、集会祭儀の参加地区も決まっておりません。決まり次第連絡網、メールで等でお知らせっします。

2021
9/12
ひとつになろう
カトリック東室蘭教会広報誌　毎月第2日曜発行

カトリック東室蘭教会
〒050-0073
室蘭市宮の森町4-9-7
0143-44-3851

50の手習い

（本当は「60の手習い」が正しいらしい）

竹原　徳男

50の手習い　（本当は「60の手習い」が正しいらし

昨年は新型コロナウイルス感染拡大による不況のあおりもあって、まあ休業日の多かったこと。不要不急の外出規制、日中何するべかと家中をやたらうろつき、ふと見上げた本棚に8年前に買った手つかずのNHK手話テキストを見つけた。毎週録画したままで見てもいないビデオもあった。それまで自分が知っている手話といえば「おい、一杯呑みにいくか？」くらいなものだったので、せっかくテキストも発見したことだし、どんなものか、まずはページをめくってみることにした。すると意外に面白い。まるでブロックサインを解読していくような楽しさもあって見事にハマった。どんどんページは進み、気が付いたら一年。それはもう日常の退屈さを救うだけの存在ではなくなった。何故その本を買ったのかというと、それは8年前のあることがきっかけだった。

８年前のその日、登別市手をつなぐ育成会として市教委との懇談会に向かった私だったが、予期せぬ渋滞にまかれ、やや遅れ気味で会場（役所だったか市民会館だったか）に飛び込んだ。階段を駆け上がり、壁に時計を探したが見つからず、目の前のエレベーターの横に立っていた女性に「すみません、今何時でしょうか？」と尋ねた。すると彼女は身振り手振りで断るように後ろに下がったので、アレ？何かマズかったかな、息を弾ませた怪しい男にでも思われたか？と思いながらも「スミマセン」と頭を下げてその場を離れ、懇談会の部屋に入った。

やれやれ何とか間に合ったと席で息を整えていると、間もなく2人の女性が部屋に入ってきた。見るとさっき声掛けした彼女。この方も懇談会に出るのかと思って見ると、彼女が着いたのはろう者代表の席だった。もう一人の方は手話通訳者だった。その時初めて、「ろうの方だったんだ！」と知り、先ほどの次第が理解できた。偶然ろうの方に話しかけ、福祉関係団体にいながら見事に通じなかった自分。今まで知らなかった世界に初めて触れた。「チッキショー！いつか絶対この人と話がしたい！」と、懇談会が終わった道すがら本屋に飛び込み、NHKの手話テキストを買って帰った。が、その後いろいろな雑多ごとに振り回されながら時は過ぎ、番組の録画は再生もされないまま毎週続けられ、その本は結局8年間、コロナ禍を迎えるまで書棚で眠ってしまう。

今年7月。「そんないきさつもあって最近“独学手話”にハマってます」と福祉関係の仲間に話したら“登別手話の会”見学どう？実際ろうの方が指導してくれるよ。」と紹介してくれた。覚えるだけじゃ意味ないよなぁと思い始めていた頃だったので、連絡をとって見学させていただくことに。どんなだろうか、俺でも大丈夫だろうか。初めて教会に足を運んだ時と同じようなワクワクを感じつつ、指定の場所に向かった。コロナの関係でしばらく休止していた活動が今日から再開というタイミングで、部屋

に入ると数名の方がワイワイやっていた。何か準備するものはありますか？とたずねると、「フェイスガードと“楽しいやる気”」という答え。手話は手の動きだけでなく口の形を読むことも大事な要素なので、メンバー全員マスクではなく透明なフェイスガードをつけている。手話だからきっと静かなサークルなんだろうという予測を覆すように、実際はとても大声で賑やかだった。初めてお会いする方ばかりだったが、そこで驚いたのは、その中の１人こそ今から8年前エレベーターの横で僕に話しかけられたその方だった！なんという再会！神様が遇わせて下さったに違いない。「見学の竹原さん、手話に興味を持ったきっかけは？」とのインタビューに、「きっかけはこの方です！」と8年前のいきさつを伝えたら、「８年前！へェ～、全然覚えてないヨ」と手話で返ってきた。（アララ～）
その後正式に入会してからは、初心者ならではの“変な手話”、普通に通じない「新しい手話表現を勝手に創作」と、覚えることや直さなければならないことに関して大変豊かに恵まれている。カタコト手話であっても“通じる楽しみ”が少しずつ増えてきた。

「いつかこの人と手話で話がしてみたい」と思ってから8年。神様は様々な偶然をお使いになって、巡りあわせを御計画になり、思いがけない時にそれをお与えになります。感謝しながら胸の前で十字を切ると、「父と子と聖霊、あれ？なんだかこれも手話っぽいな」と思えてしまいます。
手話は、会話の手段というだけでなく、顔の表情、体や手の動き全てを使って“気持ちを伝える”手段なのだそうです。（日本人より外国人の方が手話を伝えやすいというのもうなづけます）
手話は知らなくても私たちは教会で「十字を切る」ことを知っています。この「十字を切る」は教会に集う私たち信者の間で共通の言葉です。それは日本中、いえ言葉はなくても世界中に共通の言葉、さらには天と地とをも結ぶ言葉ではないかと思っています。同じ信仰を持つ者同士が通じる、讃美を共有できるという意味では、これも立派な「手話」です。言葉は不要、でも通じています。「十字を切る」。みなさんと自然に交わし合っていきたいですね。

神様が与えて下さった偶然に任せて、いつかその方とペラッペラに話せるようになる日が来ますようにと思いつつ（そこまで御計画にあるかどうか？？？）、毎朝、十字を切るところから50の手習いを始めています。

手　話　で　話　そ　う

札幌教区の皆様

新型コロナウィルス感染拡大に加え、熱中症を踏まえたミサ、集会等の対応について（No.8）

カトリック札幌教区　勝谷太治司教

月中旬のまん延防止措置の解除に加え、オリンピックの開催、加えてインド型のウィルスによってワクチン接種に新たな不安が増してきている状況において、追い打ちをかけるように暑い夏がやってまいりました。北海道の教会はクーラーを設置していないところが多いため、熱中症にも十分配慮が必要となってまいりました。

既に以前の通達によって札幌教区の皆様には、司教協議会より出されたガイドラインに従ってご対応いただいていますが、今回はそのガイドラインに加え熱中症対策についても下記の通り十分な配慮をお願いしたくお知らせいたします。

記

１：司教協議会によるガイドラインに従って対応を継続してください。
　現在はフェーズ４の状況。いつでもまん延防止措置、緊急事態宣言になりうる状況です。政府と行政の発表に合わせて教会も対応していきます。但し、北海道は地域ごとで大きく状況が異なりますので、地区ごとで状況判断をしていただき、主日ミサを中止にする際には地区長より司教もしくは事務局長までお知らせください。
２：熱中症対策のため、聖堂・集会室で冷房・扇風機などで熱気への対応をするとともに、ミサ中であっても水分（水・お茶以外は禁止）補給は許可しますのでお知らせください。
３：高齢者・基礎疾患をお持ちの方、またミサに与ることに不安を感じられる方は、主日ミサの参加義務を免除していますので、無理をなさらないでください。
繰返しお伝えしますが、教会へ足を向ける機会が減った今、人との直接的な係わりが更に希薄になっていることと思います。今まで以上に支援を必要とする人が見えなくなり、孤立を余儀なくされている人も増えている可能性があります。互いに連絡などを取り合い、いのちを守り、支えあっていただくようお願いいたします。また、霊的聖体拝領を大切にし、引き続き日々の祈りをそれぞれの場で行っていただくよう願います。

引き続き、司教を始め司祭団は札幌教区内の小教区の全ての人々のためにミサをささげています。心を合わせてお祈りくださるようお願いいたします。
以上神様の豊かな恵みが皆様の上にありますようお祈りします。

気がつきましたか？

今、生垣の剪定をしています。生垣バリカンも２台購入しました。
生垣もバーコードのように所々欠けていてみっともないので常松さんご夫妻が苗を育て移植しています。